

平成 30 年 東北大学前期日程試験【国語】問題分析

1 今年（H30）の傾向

総評

古文・漢文（特に漢文）の難度が驚くほど下がった。現代文は例年並み。今年は古漢文で差のつく問題になったと言えるだろう。

現代文

出題としてはオーソドックス。それほど易しくはない。だが、古漢文の難度が下がっていることに気づいた上で、優先的にそちらを解き、時間をかけて現代文に取り組めば合格ラインの答えは作りやすい。

合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

文学部	55%	法学部	60%
教育学部	55%	経済学部	55%

来年受験する生徒へのアドバイス

昨年度よりもやや現代文は解きにくいかもしれない。古漢文にまで目配りして、自分の合計点を最大化する努力をすることが合格への近道となろう。

古文

昨年度の『玉勝間』よりもかなり解きやすくなった。出典も非常にメジャーである。ただし、制限字数による解答の縛りはややきつめなので、そこを無難に乗り切ることが重要であろう。

合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

文学部	55%	法学部	60%
教育学部	55%	経済学部	55%

来年受験する生徒へのアドバイス

今年度、明らかに難度は下がっているものの、過去問演習は必須である。

漢文

頼山陽『日本外史』からの出題であった。日本人による漢文であるが、そもそもの読みやすさと、伊達政宗が豊臣秀吉に面会する有名なシーンであることも踏まえると、近年まれに見る読みやすさだと言える。問題も難しくないので最も差が出る分野と思われる。

合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（%）予想

文学部	55%	法学部	60%
教育学部	55%	経済学部	55%

来年受験する生徒へのアドバイス

昨年度のセンター試験にも言えることだが、日本人が漢文を書くということもある、という認識を持っておくことがそもそも必要かもしれない。